

第13回中津市子ども・子育て会議 会議録

平成29年3月22日

午後7時00分～

中津市役所4階 研修室

出席者

会議委員：板木和代、高山信子、井上登生、谷愛、甲斐裕之、甲斐裕之、清原徹、日高澄江、佐々木敬次郎、上田健二、真正浩二、出納皓雄、武吉円華、田中雅也、土居孝信、友松康樹、奥田吉弘、白木原忠

子育て支援課：栗山課長、北山主幹、竹下主幹、上家主幹、桑原、村上、大島

保育施設運営室：濱田室長、井上主幹、前田、弓取

学校教育課：廣畑教育長、五十川課長、朝吹主幹、本庄主幹、赤木

地域医療対策課：今富課長

市民病院事務部：大下次長、友野主幹

○開会

○新委員紹介

高山委員 新任挨拶

○あいさつ

井上会長）児童福祉法等の一部を改正する法律が平成28年5月27日に成立、6月3日に公布されました。今回初めて、子どもの権利の理念を取り上げています。全ての児童が健全に育成されるようにということから、児童は適切な養育を受け、健やかな成長、発達や自立等を保障される権利を有することを明確化し、保護者が子供の養育の一義的な責任を追うが、上手くいかないときには市町村がそれを支援するということが、法律として決まりました。今後、この児童福祉法の改訂を前面に出して、子ども・子育て会議の内容を考えていかないといけない。

【井上会長資料2】の2ページの『会議等』のところ、「子どもの貧困対策会議」が「子供の貧困対策に関する有識者会議」に移行しています。この第4回の資料はぜひ見て頂きたい。資料からわかると思いますが「子ども」から「子供」へ漢字が変わっています。

第二回目の有識者会議（H28.12.9）の資料をみると、配布資料の中に教育の資料についてというPDFがあります。ぜひ、目を通して頂きたい。

＝2016年12月9日の資料P2（スライドのみ）＝

生活保護世帯に属する子どもの高等学校進学率や児童養護施設の子どもの進学率、中学校卒業後、ひとり親家庭の子どもの進学率、中学校卒業後、生活保護世帯に属する子どもの高等学校中退率を調べた結果、この子どもたちのケアをしっかりとやらないと、自立するのが難しくなって、先々、国がその方たちのお世話をしていくのが大変になる。この時期に支援が必要なことが明確になってきた。

【井上会長資料 3】P2の参考資料の中のⅠ．子ども・子育て支援新制度の概要、Ⅱ．市町村子ども・子育て支援事業計画、XⅡ．参考資料は絶対見て欲しい。H29. 1月新制度について、量的な拡充、質の向上の所に大事な項目が全部出ています。それぞれの項目の目安が書いています。参考資料のP192からの項目をぜひ知って欲しい。今言ったことを参考に新制度の内容を見て欲しい。資料が欲しかったら事務局へ。

司会) 議事に移ります。

井上会長) 議題 1. 幼児教育・保育専門部会からの報告を土居部会長お願いします。

土居委員) 中津の子どもはこんな子どもに育てて欲しい、という統一的な指針である中津市乳幼児振興プログラム(以下プログラム)を作成するために、専門部会を3回開催して協議を行いました。アドバイザーに西南学院大学の門田教授、東九州短期大学の尾家教授を迎え意見を頂きました。また保育所、幼稚園の先生や学校教育課本庄主幹、保育施設運営室濱田室長等で構成する作業部会で現場の意見を取り入れつつ、きめ細かいプログラムの原案を作成しました。2月23日の専門部会で素案として最終的な論議した中で、委員より「国が進める保育指針・幼稚園教育要領・学校指導要領の改正が平成29年3月に告示(答申)が出る。そういった状況でプログラムを10年先に向かって作るのはどうなのか。」というご意見がありました。事務局等で論議し、新要領に基づいた形で平成30年4月までに発行するという結論になりました。両アドバイザーも引き続き入ってもらって協議する。これに対してご審議頂きたい。

井上会長) 中津市としての考えはある程度まとまっているが、国の指針をうけて沿ったものにするということですね。途上案をこの会に出して、みなさんにご意見をいただき最終案にした方がいいのではと思います。

土居委員) 中津の現場と指針が本当にリンクできているかという検討が必要ですが、見て頂いて参考意見をいただければありがたい。

栗山課長) あくまで案なので、途中経過ということであればご提供できます。次回の子ども子育て会議か、郵送によって届けます。

井上会長) 早めに委員の皆さんに送って、それについてのご意見を次の会の時に出していただくという形にした方が先生方にとっても意味があると思う。

土居委員) いいもの、使えるものを作りたいので、意見を出して欲しい。部会でしっかりもんでつくりたい。

2. 量の確保について【資料1】

井上主幹説明・栗山課長説明

資料1 P3 養育支援訪問事業 H27実績値 1104→508へ訂正

一時預かり事業(幼稚園型) H27計画値実利用者数、実績はのべ利用者数
H29に目標値の見直しの検討

井上会長) 1の利用者支援事業とはどういうものか。広報はどうしていますか。

栗山課長) H27.4から子ども・子育て支援制度が始まり、保育サービスなどの子育て支援の内容が複雑化してきている。H28.7から利用者支援専門員を配置して、どういう風にサービスを利用していいかわからないお母さん方の相談を受けています。

広報については事業開始にあたり市報でのお知らせと中津市のウェブサイト『子育てのすすめ』で紹介しています。

甲斐委員) これまでの子育て支援課の業務とどう違うのか。相談や助言に特化した方なのか？保育コーディネーターなのか？

栗山課長) 保育コーディネーターではなく、平成28.7から始まった事業で、サービスをスムーズに利用できるよう横の連携の助言をさせていただきます。

井上会長) 事業の全てを把握して、相談を受けた時にどの部署に行けばよいか的確につなげてくれる。保育園や幼稚園、小児科医、子どもが集まってくるところにポスターを貼るなど、広報の仕方を来年度からは検討して欲しい。

土居委員) ファミサポは幼稚園や保育園等に周知・広報して欲しい。利用者支援事業はワンストップの機関になるのではないかと期待している。

小さなパンフレットでもあれば、困っている方に渡して、まず事業の理解をしてもらう。ファミサポは核家族で非常に困っている方も多いのを利用してないとなると、せつかくの事業がもったいない。各保育士さんや幼稚園の先生が、こういう事業があるよと、分かりやすく説明するグッズがあればいい。利用者支援事業に紹介してサービスにつなげられる

ような流れをつくれたらと思います。

井上会長) ファミサポが出たのでご意見があれば。マッチングの内容は？

栗山課長) 面談はしたけどマッチングしないことが平成 27 年 10 件、平成 28 年 3 件ありました。1 件は入院中のお兄ちゃんがいる、下の子の面倒を病院で見て欲しいという依頼だったが、事業としては行えなかった。

井上会長) 利用条件が合わないこともある。まかせて会員の情報提供もいるのかも。広報も工夫して欲しい。

続いて 2 の地域子育て支援拠点事業について。未就学児が何パーセントいるかの資料はありますか？次世代支援協議会の時、中津市は子どもが小さい時は家庭で見たいという親御さんがたくさんいました。そういった親御さんの気持ちを尊重して、子育てのしやすい環境づくりが大切だと思ってやってきた。

栗山課長) 0 歳～5 歳人口を中津市全域でみると、

平成 26 年度 実績：4889 人

平成 27 年度 推計：4651 人 実績：4825 人（推計：-238、実績+64）

平成 28 年度 推計：4546 人 実績：4803 人（推計：-105、実績+22）

推計値と大幅な差が出てきている。H28 年度は推計値と比較すると 257 人子どもさんが減っていないという状況があります。

土居委員) 3 歳児未満の自宅保育率が高いのは中津のいいところ。平成 29 年で計画の見直しをしていただきたい。

井上会長) 推計の見直しを事務局お願いします。子育て家庭が転入してくる結果、子どもの数が増えているなら、その辺の推計の見直しもお願いします。

今富課長) 4.乳幼児全戸訪問事業の所で目標値が 850、出生数が 815、訪問率は 97.5%となっていますので◎でも良いと思います。

井上会長) 3. 妊婦健康診査事業、4. 乳幼児全戸訪問事業は全国的に見ても高い数値。かつ訪問が出来なかった家庭の背景もしっかりわかっている。その方たちが 4 ヶ月健診にくるとこまで入れるとほぼ 100%近い方たちを中津市の母子保健は把握している状況です。◎でいいと思う。この訪問を受けての継続訪問が 18%位、1 歳 6 か月までで、さらに継続訪問が必要な方は 8%位というのが中津市の実態です。養育支援の項目については、延べ数

と実人数が分かれば制度が上手くいっているか確認できる。(制度が上手くいっていれば何度も利用するので実人数と延べ人数の差が出る)

栗山課長) ◎に修正させて頂きたいと思います。

出納委員) ショートステイとトワイライトステイを分けているのはなぜか。宿泊を伴うかどうかの違いで大差ない。合算すると同数になるのでは。

栗山課長) 平成 25 年度の実績値に基づいて計画値を立てています。数値については平成 29 年の中間見直し時に検討したい。

出納委員) 社会的には緊急性があり大切なので、このニーズが満たされていないとまずい。限られた予算の中で複数回利用出来ないと、断られたことが以前はあったが、H27 年度はそのような事はなかったか？

竹下主幹) 実際 7 回を超えた方もいますし、ショートステイから一時保護委託になったケースはあるが、使えなかったというケースはない。

出納委員) 何回でもニーズに答えてあげて欲しい。

井上会長) ひとり親の場合は、問題を抱えていることもあります。ただ回数が多いとだけでなく、ニーズの内容も見してほしい。多く使う人はどうすれば改善できるのか。制限するだけではなく、そういった方たちへ支援ができればとおもいます。

土居委員) 予算も計画で行くのではなく、一年ごとに利用をみて決めて。

栗山課長) 予算は(子ども子育て支援事業計画の)計画値では決めていない。予算がショートして利用できないということはない。

井上会長) 安心しました。次に 8. 一時預かりについて。

上田委員) 幼稚園型以外についてニーズの把握をしているのか？目標の 6480 に比べて 3709 と大幅な減となっている。深刻な問題となっている場合もあるかもしれない。現状を教えてください、認可協でも協力を検討したい。

栗山課長) 公立のニーズは把握しやすいが、私立についても、なんらかの方法で調査した

い。

井上主幹) ニーズは調査していないが、H27の実績の中で、第五保育所で1700件ほどの利用がありました。私立では7園程で行っていて、一園あたり150~300件位です。本来はもっと預けたかったが預けられなかったと推測される。そういう意味ではニーズが高い。H28年度からは公立の第二、三でも一時預かりを始めている。まだ認知度化低いことと第三は中心地から外れており実績が低いですが、第三の方では実績が上がっているためニーズは高いと思っています。

井上会長) ぜひ、連盟の話し合いの中でも出していきたい。ここも実人数と延べ人数をきちっと出していくことが大事。

甲斐委員) 保育士として、一時預かりで来る子どもさんは面接をして受入となる。始めは1~2時間泣き続けることもあるので、多くの子どもを預かるのは難しい。保育士不足もあると思う。通常保育をしっかりと、プラス一時預かりはきつい。他の園を紹介することもある。公立で一時保育を受け入れられる容量があればありがたい。中津市として困っている人にサポート出来るなら、サポートして欲しい。

谷委員) 子どもが3人いて、上2人は認可外に行っている。2歳の子がいるが、半年前から一時預かりの問い合わせをして、やっと如水保育園にいった。今、如水保育園もいっぱい断っているという。家から近いところにかかせたい。預かりに比べて保育園に入園できるわけでもない。(保育所に入所すれば) 第三子はただですが、今は月に2万ほど払っていて一時預かりはお金がかかる。

井上会長) 保護者の意見も直接聞いて欲しい。

武吉委員) 私は子どもが保育園に入れているので特に困っていない。八千代保育園も一時預かりをしていて、来られている方も多そうですね。保護者会は入園式の時に一回だけで、あとは役員さんにお任せしている。

板木委員) 一時預かり事業は障がい児にとっては敷居が高い。手のかかる大変な子を預けるのは心苦しく預けられない。障害福祉のほうで最近メニューが充実したので対応してもらえていると思う。ただ、幼児期から健常児と一緒に遊ばせたい、子育てさせてもらいたいという気持ちがあって、葛藤している保護者はいると思う。

土居委員) 3歳未満児の子どもをもつ専業主婦の方が用事のため預けたいというニーズと、

待機児童になっている方が半分の12日間だけでも一時預かりで預かって欲しいというニーズに分かれる。今後の待機児童解消で改善していけば変わってくると思う。未就学児を持つ専業主婦家庭の方が核家族でストレスがたまるので、一時預かりを利用出来るようになればいいかと思う。数字は下がっても内容の充実には繋がると思う。発達障害の方に関しては中津流のなにか新しいものを考えて頂きたいと思います。

井上会長) 障がいをお持ちのお子さんの場合、家から遠いとさらに大変、家から距離が近いところでの利用が出来るように。

田中委員) P T A役員も行事の前の準備の時に子どもを預けたいと言う人もたくさんいるので、一時保育のニーズは高い。

井上会長) 9. 10も同じような内容だろうから特に何かあれば。追加意見はありますか？

土居委員) 病後児はすごく助かっている。割と周知できているのでは。保護者の中には申し込み用紙を事前に数枚もっていく人もいる。

井上会長) 足りないという意見はあるか？

栗山課長) 今は一箇所(恵保園)で実施。中津市は病後児対応のみだが、利用できなかったという声はない。今のところ病時対応の計画はないが、病児対応を作ってほしいとの声大きい。病時については医師会や関係機関の協力が必要。一方、そのときぐらい親が見たほうがいいのではとの声もある。いろんな声を聞きながら今後考えていきたい。

井上会長) どこまでサポートすべきなのかは難しい問題。せめて病気の1~2日くらいは企業側としても休めるように理解・検討して欲しい。

土居委員) 保育所での病児保育は、発熱のときに親が来るまで別室で安全に看るというところもあるが、事業化するの難しい。費用が足りない。特化した専門のところでないと難しい。

井上会長) 今後いろいろな意見を聞きながら検討したい。
放課後児童について。

真正委員) 「11. 放課後事業健全育成事業」は大幡小学校では大幡児童クラブとまりあ児童クラブがある。大幡児童クラブは、保護者運営しているので非常に厳しい状態。今回民間

委託が決定し、来年再来年には建物増築・人数も倍にするとのこと。今後、民間委託が増えるのか？市の考えを教えてください。

栗山課長) 大幡児童クラブは、保護者の運営が厳しいとの意見があったので、平成 29 年 4 月から民間のシダックスヒューマンサービスが運営を行う。市内に現在 15 箇所あるなかで、すべて民間委託を推進していくということはない。基本運営委員会が行うことが望ましい。ただし、業務負担が大変というところは業務軽減のサポートをしたいと考えている。また、今後も定員の拡大予定である。

井上会長) 委託も慎重に。今のままで安心・安全ならそのまま。

「3. 平成 29 年度 教育・保育施設利用定員について」

井上主幹) 資料 2 を説明

※追加：みさと保育園が 10 人減を記載していなかった。合計 77 名の増員予定。

井上会長) がじゅまるの追加説明をお願いします。

竹下主幹) 相談所の委託を受けて 2 歳児未満の一時預かりをしている。社会的養護的意味を含んだ施設になります。

井上会長) 近くにこういった施設があるのはとても大事なこと。

他に意見などありますか？

土居委員) 宿泊は伴うのか？

竹下主幹) 保育所とまた別の場所で宿泊ができます。プラスアルファという形です。

井上会長) 「4. その他」について

事務局) リレープランについて (栗山課長・今富課長・大下事務部次長)

井上会長) その他の件について

土居委員) 子育て包括センターの設置はどここの窓口？

今富課長) 地域医療対策課です。

井上会長) 子育ては、子ども家庭支援拠点が今後計画中。中津市の場合は、子育て支援課と地域医療対策課の連携が上手くいっている。

今回は、貴重な意見の話し合いが出来た。

五十川課長) 乳幼児期から適切な関わりや保護者ニーズにどう対応していくかが大事。子どもを安心・安全に育てられるために委員の力が必要。今後とも協力お願いします。第13回子育て会議を終了します。

栗山課長) 次回は、6月ごろ開催予定。

なかつふれあいこどもランド終了。平成29年度は違ったかたちで事業展開の予定。今までご協力ありがとうございました。今後とも協力よろしくお願いします。以上!